2020 明治安田生命 J3 リーグ 第９節 vs. いわてグルージャ盛岡

8/8（土）18:00 kick off　@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

岐大通 2020

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いします。

2020J3■順位表■第８節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から視て）

1	秋田	24p	+15	16	1	
2	鳥取	19p	+7	14	7	A○
	熊本	19p	+7	15	8	H○
4	長野	15p	+6	13	7	
5	岐阜	14p	+5	13	8	--- ---
6	沼津	13p	0	8	8	
7	今治	12p	+4	9	5	H△
8	相模原	12p	0	8	8	
9	富山	11p	+3	14	11	
10	鹿児島	10p	+1	15	14	A○
11	藤枝	10p	0	15	15	A●
12	岩手	10p	−7	9	16	
13	八戸	8p	−5	8	13	
14	YS横浜	7p	−7	11	18	
15	福島	6p	−4	8	12	
16	Ｃ阪23	5p	−2	7	16	A●
17	Ｇ阪23	4p	−10	6	16	H○
18	讃岐	2p	−8	5	13	H△

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定（H&A実施完了時のみ）

次回HomeGame

第12節 vs.ブラウブリッツ秋田
8/30（日）18:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休　午後３時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩３分。
休:月曜日

today's guest：いわてグルージャ盛岡

2019 J3 ７勝５分22敗　勝ち点26：18位

直近の対決と結果	ここ３試合の公式戦の結果	
	FC岐阜	いわてグルージャ盛岡
初顔合わせ	2020/08/02　J3 - 08節＠藤枝サ 藤枝 3-1 岐阜	2020/08/02　J3 - 08節＠北上 岩手 3-1 Ｃ阪23
	2020/07/29　J3 - 07節＠白波スタ 鹿児島 0-4 岐阜	2020/07/29　J3 - 07節＠愛鷹 沼津 1-2 岩手
	2020/07/26　J3 - 06節＠長良川 岐阜 3-0 Ｇ阪23	2020/07/25　J3 - 06節＠ギオンス 相模原 0-1 岩手

いわてグルージャ盛岡：

2000（平成12）年に創設のヴィラノーバ盛岡を2003年に組織変更してグルージャ盛岡に。東北リーグ１部に９年所属し、すべてのシーズンで「優勝」か「準優勝」。９年目の地域リーグ決勝大会で優勝、既にＪリーグ準加盟クラブに承認されていたため、翌年からのJ3発足に合わせJFLを経由せずにJ3リーグに参戦。2018年末の岩手県内全域のホームタウン化に伴いクラブ名を「いわてグルージャ盛岡」に変更。（吉田鋳造）

●新型コロナウイルスによる緊急事態宣言等の影響で、日程を短縮して行われる 2020 年Ｊ３リーグ。その影響のひとつが、今季８回、７月には２回も行われる３連戦だ。その２回目の３連戦初戦、7/26（日）第６節・ホームＧ大阪 U-23 戦は、雨のピッチに適応した岐阜が、前半にＣＫを＃25 橋口拓哉がヘディングで先制すると、＃８中島賢星のミドルシュートで追加点。試合終了直前に＃16 富樫佑太が３点目を奪って３－０で快勝。そして中２日で行われた 7/29（水）第７節・アウェイ鹿児島戦。堅い守備で鹿児島の攻撃を防ぎ続ける岐阜。後半に入ると投入された＃９高崎寛之の決定力が爆発して３得点を奪うなど、岐阜の攻撃が活性化して４－０で完勝。１年でのＪ２復帰を目指すチーム同士の激しい一戦を制して、３試合連続無失点勝利を手にした。そして中３日で開催された 8/2（日）第８節・アウェイ藤枝戦。試合序盤から厳しくプレスをかけて攻撃を続ける藤枝に対し、粘り強く守る岐阜だったが、ゴールをこじ開けられてしまう。後半も岐阜のカウンター攻撃は機能せず２失点。試合終了直前に＃10 川西翔太が意地の１点を返すものの、１－３での敗戦。残念ながら４連勝とはいかなかった。
この３連戦の結果、ＦＣ岐阜の順位は７位から５位に。首位・秋田が破竹の８連勝で独走し、２位タイの鳥取・熊本が勝ち点 19 で追いかけている状況だが、岐阜もまだ追いつけない差ではなく、焦る段階ではない。そして、Ｊ３リーグは全 34 節の約４分の１を消化した。現在のＦＣ岐阜の戦績は４勝２分２敗。過去の“Ｊ３優勝ライン”は、おおよそ『１試合あたり勝ち点２』で、現在の岐阜は１試合あたり勝ち点 1.75 なので、少し足りない。前節での敗戦を糧に、再び勝ち続けなければならない。
さて、今節の対戦相手はいわてグルージャ盛岡だ。チーム名とエンブレムを現行のものに変更して臨んだ昨季は 18 位に終わったが、今季を迎えるにあたって親会社が NOVA ホールディングスに替わるなど、フロント体制を大幅に強化。そしてチームは新監督に秋田豊氏を迎えつつ、Ｊ１やＪ２で活躍した選手を大幅に補強。合計 30 名の選手編成（岐阜は 28 名）で質量ともにレベルを上げ、下馬評ではＪ３の台風の目になるかと思われたが、なんと開幕５試合は１分４敗で 18 位と大きくつまづいてしまう。しかし、直近の３連戦で相模原・沼津そしてＣ大阪 U-23 を撃破して３連勝、一気に順位は 12 位に。ようやく個々の選手がチームとして融合してきており、また３連勝と調子を上げてきているだけに、全く油断ができない相手だが、ホームでは勝たなくてはならない。そして、奇しくも両チームの今季スローガンは“ICHIGAN”と全く同じ。岐阜の方が、より“ICHIGAN”となって戦っているのかを示す機会でもある。岩手で最も注意すべき選手は、現在３得点を挙げている＃９岸田和人だが、前節に累積警告となり、今節は出場停止。岐阜にとっては好材料だが、代わりの選手を的確に想定して対策しなければ、逆にやられてしまう危険性もある。また、＃17 中村太亮の左足から放たれる精度の高いボールは、岩手の大きな武器だ。そして、岩手はこの３試合から３バックに変更して守備が安定し、また＃27ＧＫ鈴木智幸がビッグセーブを連発して３連勝を達成している。この守備網を崩さなくては勝利への道はない。岐阜の攻撃陣には奮起してもらわなくてはならない。
また、「第２移籍ウインドー」が、7/31（金）～8/28（金）まで開いている。コロナ禍の中で厳しい経営を強いられているだろうが、今のチームに必要な補強もすすめて欲しいところだ。ホームで再び勝利を掴み取るために、僕らＦＣ岐阜サポーターも、限られた手段の中で、選手たちに精一杯の応援をしよう。タオマフ・ゲーフラの掲出（振るのは禁止）、試合中の拍手（手拍子は禁止）などで、選手たちの背中を後押ししよう。選手たちはきっと、僕らの想いに応えてくれるはずだ。（ささたく）

投稿募集！！ gidaidohri@gmail.com

ＦＣ岐阜大好き通信（岐大通）8/8号　編集発行：『岐大通』製作委員会　今号の製作担当 ：ささたく＆吉田鋳造

【第６節】岐阜 3-0 Ｇ阪 23

●お昼頃には止んでくれたが、試合開始時には再び降りしきる雨。その天候は、ワンプレーのクリアミスで失点して引き分けに終わった第３節・讃岐戦を、そして対戦相手は、油断して自滅した前々節・Ｃ大阪 U-23 戦を、つい思い出してしまう。僕は試合前に不安になってしまっていたけれど、選手たちは、あの２試合の経験と反省をしっかりと活かしてくれた。ロングボールを多用したシンプルな攻め方と、セーフティ優先のクリア。試合序盤は相手との “蹴り合い” だったけれど、徐々に岐阜のボールが繋がりはじめる。何本もオフサイドをとられたけれど、それは縦へのボールに対して抜け出すプレーを続けた結果として、僕は評価したい。そうして優位に立った前半 21 分、＃６三島頌平の放ったＣＫを＃25 橋口拓哉がドンピシャのヘッドで先制点！いやー、長身ＤＦがヘディングで決めるっていう、お手本のようなセットプレーからの得点でした。セットプレーでの得点は今季初だけど、これから勝利を積み重ねるためには絶対に必要な得点源だから、これからも決め続けてほしいです、はい（笑）。先制点を獲て勢いを増す岐阜の攻撃。そして前半 34 分、＃９高崎寛之のポストプレーで拾ったボールを＃８中島賢星がミドル！相手のデフレクションもあったけど、ボールは見事にネットを揺らして追加点！おいおい、岐阜がこんなに優位に試合を進めるのはいつ以来？（苦笑）後半になると芝の状態も少し良くなり（この試合は水抜きしたのね）、Ｇ大阪 U-23 の選手たちも慣れてきたのか、中盤でのボールの奪い合いが激しくなってくる。それでも優位に立ち続ける岐阜は、何度か決定機を作るものの、決めきれない。一方の守備は最後までセーフティ優先で崩れることはなく、このまま試合終了かと思ったＡＴ４分、相手Ｇ前での混戦から＃16 富樫佑太がダメ押しのゴール！そして、そのまま試合終了。試合前の僕の不安を吹き飛ばす、３－０の完勝だった。

個人的に面白いなと思ったのは、熊本戦と同じく試合終盤に交替出場した＃15 町田ブライトの凄まじい推進力。彼が前線で張ってれば、相手ＤＦ陣はカウンターが怖くて上がってこれない。だから “ストッパー” としての運用もアリなんだけど、もう少し長い時間での活躍も見てみたい。それと、＃23 大西遼太郎はＪ初アシストおめでとう！これからも経験を積んで、いい選手になってほしいね。

久しぶりの連勝。調べてみたら、ホーム戦連勝でも 2018 年 10 月 [岡山、千葉] まで遡るし、純粋な連勝だと同年５月 [Ａ大宮、Ｈ新潟]、つまり古橋亨梧が月間ＭＶＰを獲った時まで、さらに２試合連続の完封勝利ともなると、2017 年５月 [Ｈ金沢、Ａ群馬] 以来という…（苦笑）。だけど、もちろん目の前の１勝も、とても嬉しいものだけれど、Ｊ３優勝・Ｊ２復帰を目指す以上は勝ち続けなければいけない。ひとしきり勝利に歓喜したら、気を引き締めて次の試合での勝利を！（ささたく）

●この試合の感想を一言で……というと湘南サポとして名を馳せる某国務大臣の言葉をお借りするのが最適だろう。曰く『圧勝』。地元のクラブが長良川をメインにしてから、早や十数年。その間、ずっと見続けてきた雨天での田んぼサッカー、略して『田ッカー』。熟脚に 2-8 でボコられた試合はまだマシなピッチ。それ以外の試合はいずれも白熱の、涙と苦笑の連続で、勝ち点取るのも一筋縄ではいかない展開ばっかりだった。

ところが、この試合。何というか、世界線がまるで違うと思わせるような、信じ難い試合を目の当たりにしてしまった（DAZN 観戦だけど）と言うしかないね。ナニコレ？まるで、チーム全体で意思統一されてるかのようなゲームプランを完璧に遂行し、あまつさえ、ゲームマネジメントを主導してる……。え？どこの欧州ＣＬ出場クラブですか？ 機械仕掛けのおもちゃ？のように、自陣からはロングボールの供給、自陣でボールを受けた時にフォローワーとの距離があれば、セーフティファーストでボール・デッドに。ナニコレ？この規律正しい『田ッカー攻略法』は何ですか？ホントに FC 岐阜、ですか？と、我が目を何度もこすりたくなるような。

いや、ホントに、美しいまでの完勝劇。この試合の感想を一言で表すなら『圧勝』だが、少しお色直し的？に形容するなら「これからの長良川は毎試合、土砂降りになればいいのに。」かな？すいません、暴言です。それぐらい、興奮醒めやらぬ状態なのですよ。とはいえ、この展開は、やはり、相手が U-23 だったから。数多のタレントを輩出し、なおかつ、ソレを継続しているクラブでもフィジカル的にはウチに一日の長あり。オマケに、彼らに備わっているテクニックが全く通用しないコンディション。おそらく、彼らにとっては空前にして絶後の体験なのではないだろうか。しかし、コレ（で）もサッカー、かつ、サッカーのピッチなんだよね。あ、申し訳ないけど、若脚の GK くんには楽しませてもらった。アノ、尽く明後日の方向に飛び、こちらのスローイングにしてくれるゴール・キック。まだ２種登録の 18 歳。辛かったろうな。察するに余りある。ただ、ね。ぶっちゃけると、「とても懐かしい光景を見せてくれた。ありがとう！」だ。いや～、〇平なんか、雨が降ってなくても（以下略）え～っと、吉川クン、だっけか？キミがこんなピッチでやるのは、当分ないから。いや、昨日を糧に、これっきりにするくらい成長してトップへ上がろう。ガンバレ。

まぁ、実際の話、フィジカルで勝てたから圧勝しただけで、これが若組以外のクラブだったら五分五分だからね。そうカンタンに「アメフレ！」というワケにはいかんよ。まともなピッチで正々堂々と勝ってもらわないとね。（正々堂々とは言ったけど、正攻法とは言ってない。こすくても正々堂々なら許す）ゼイタクを言えば、前半終了間際の絶好機。アレを 10 番が決めておけばな。ホント、今季ココまで、何点決め損なってんのさ（苦笑）

いや～、引き締めようとしても口元が緩んで、語り尽くせなくて、どうしようもない。が、ソレも今日まで。明後日には、早くも昇格圏内挑戦者決定戦第一ラウンド。秋田戦まで落としていい試合は一つもない。最低でも勝ち点。それがノルマ。「一年で復帰」が目的ならね。大分遠征後に陽性反応が複数名判明したクラブもある。他人事ではない。兎にも角にも、無事の帰還。ただ、それのみを祈る。あとは望外。それでいい。

あ、ひとつ書き忘れてた。この試合。サーキットでの走行が似合いそうなスペックの高いマシンが苦しむピッチ・コンディション。その中で、唯一人。足元を物ともせずゴールに向かう姿。まるで、一台だけキセ〇のトラクターがいるような感じ（最大級の誉め言葉です。当社比）。その馬力、躍動感。町田ブライト、恐るべし。なんか、久々に、走り出すだけでゲット・ゴールのキナ臭い香りを醸し出す選手を見た気がしたよ。もっと、使ってくれないかな？（ぐん、）

●ガンバ大阪の若い選手には酷な環境だっただろう。水しぶきが上がるピッチはグラウンダーのパスはつながらず、走るだけでもフィジカルにかなりの負荷がかかることは想像に難くない。でも、サッカーはそれに対応しなければならないスポーツでもある。そもそも U-23 というチームは『経験を積ませる』ために存在しているわけだし。一方、そんな「長良川の『沼』」を経験しまくっている（笑）ＦＣ岐阜の選手達は、場数の違いを見せつけてくれた。守備に際してはとにかくセーフティに。讃岐戦での失態からちゃんと学んでいた。そして、攻撃ではハイボールを相手陣に送り込む。まさに「『雨の長良川』攻略法は自家薬籠中にあり」。ま、ホームなんだから当たり前だけどね（笑）。シュート数は 13 対２。もし違う試合環境だったらどうだったかはまったくわからないけれど、とにかくこの日は圧勝だった。（吉田鋳造）

【第７節】鹿児島 0-4 岐阜

●鹿児島・白波スタジアム。昨季の 7/20（土）第 23 節は雷雨で試合が中止となり、その代替となる 10/30（水）の試合では、両者得点を奪えずこのまま引き分けかと思われた試合終了直前。＃49 ルカオに、そこしか空いてないポイントに決められて、そのまま試合終了。Ｊ２残留の大一番でまさかの敗戦…。この敗戦のショックから立ち直れず、ＦＣ岐阜はそのまま５連敗して最下位・Ｊ３降格が決まったという意味で、個人的には（薩摩の方々には恩義を感じつつも）実に忌々しい気持ちになるスタジアムだ。そのスタジアムで、今度は１年でのＪ２復帰・Ｊ３優勝を目指すチーム同士として相まみえることに。そして、あの時と同じ水曜開催。しかも鹿児島は中３日、こちらは中２日でのアウェイというハンデ戦。厳しい試合だけれど、負けられない一戦。

さて、試合は疲労が多く残っているハズの岐阜が、前半は体力温存のためリトリート…しない！？序盤から真っ向勝負で、前線からプレスをかけつつ守備ブロックを構築し、ボールを奪ったら縦へカウンターを仕掛ける、これまでと同じ戦術。ちょ、ちょっと待って、中２日だよ！？どう考えたってウチが先に疲労が溜まって後半に足が止まるよ！？と DAZN の前で焦る僕の心配を余所に、厳しくチェックに行き、ボールを奪っては縦に供給する岐阜の選手たち。惜しくもオフサイド、再び守備…そんな展開が繰り返される中、なんと鹿児島攻撃陣の一角である＃８牛之濵拓が前半 17 分に故障して交替。鹿児島の他の選手も、なんだか苦しそうな表情。もしかして…鹿児島の方が先にバテてる！？正直、僕の想像を超えていた。もちろんボールを支配していても『持たされている』だけで、守る時間が長い方が、実は優位に立っている試合はある。それは昨年までで痛いほど身に浸みている（苦笑）。とはいえ、よっぽど厳しいフィジカル強化や細かい体調管理をしていなければ、中２日のチームがここまで動けるとは思えない。これが今季からの『フィジカル系コーチ２名体制』の成果なのか……（驚き）。
もっとも、前半は（今季は鹿児島の）＃50 馬場賢治が２本ほどヤバいのを（昨季と同じように）ミスしてくれて助かったという面もある（苦笑）。一方の岐阜は、＃11 前田遼一が抜け出してＧＫと１対１になったが決められず、お互い無得点で前半終了。そして後半アタマから岐阜は＃11 前田に替えて＃９高崎寛之を投入。すると、直後の後半 47 分、カウンターで左サイドを駆け上がった＃28 永島悠史からのスルーパスを、その＃９高崎が裏に抜け出しファーストタッチでシュートして先制点！……えーと、得点って入るときには、こんなに簡単に入るものなのね（苦笑）。そして後半 56 分には、今度は＃２橋本和からのクロスをＰＡ内で足下に納め、ＤＦを背負ったまま反転してシュートし、２点目！クロスも良かったけれど、＃９高崎の個人技で奪い取った得点ですね（笑）。そして後半 64 分には自身が獲たＰＫを冷静に決めてハットトリック達成！さて、普通の方でしたらこれで “楽勝” と思うのでしょうが、しかし 2015 年に岐阜サポだった者たちには、“ハットトリック恐怖症” なるトラウマがありまして……僕もその１人です（苦笑）。３点リードしてても不安ばかりが募り、やっと安堵したのは後半 85 分に＃８中島賢星がトドメの４点目を叩き込んだ時。相手選手が４人もＧ前にいながら、誰も＃８賢星のマークをしていなかった。完全に足が止まり、集中力も切れた状態に、やっと僕は『よし、これで勝てる』と思った。そして最後まで失点を許さない４－０での完封勝利。昨季の借りを、これで少しは返せたのかな？
さて、3 試合無失点勝利は 2016 年３月 [Ｈ北九州、Ａ愛媛、Ｈ水戸] まで遡るけど、４試合連続無失点勝利の記録はない。次の試合で、是非とも達成してほしい。
それにしても＃10 川西翔太選手、獅子奮迅の活躍は誰もが認めるところですが、どうも今季はゴールポストやクロスバーに嫌われる場面が（苦笑）。自身のＪ通算 200 試合出場を祝うゴールも幻に…。でも、近いうちにゴールを大量生産してくれることを信じてます！（ささたく）
●中二日で迎えたアウェイ鹿児島戦。いまだ忘れ得ぬ痛恨の失点劇。アノ日と同じ、水曜日の白波で、まさか、まさかの完勝劇！いや、勝利を信じ願ってはいたけれど、こんな展開になろうとは。前節を某国務大臣のセリフをお借りして『圧勝』と表現したが、今節も某国務大臣のセリフ再び。オマケに、今か、今かと待ち侘びた高崎ゴールはケチャドバ (笑) ファースト・タッチから瞬く間のハット・トリック。ＰＫを蹴らせて大丈夫？と思ったのはボクだけでしょうか？え？Ｊ最速ハット・トリックじゃないの？と思ったのはナンバサダーには内緒にしといてください。それにしても、ホント、ゴールに嫌われてるな、翔太サン。バーやポストに、今までどんだけイケズしてたんですか？既に４点くらいは決め損なっているような……。
ただ、ね。結果的には圧勝だけど、それもこれも前半を無失点で切り抜けたからだよね。正直、危ないシーンはいくつもあった。とにかく、ウチの左サイドがずいぶんと蹂躙されてたような気がする。もし、一点でも決められていたら？ウチは、全然大きくないけど地道なサイドチェンジと裏狙い。戦術、とか言うのが恥ずかしいくらいのオーソドックスなやり方の繰り返し。聞いてた通りの『This is ゼム爺 .』ソレで４点取っての完封勝ちなら、昨季までのアレは何やったんや！サッカーって、ホント難しくて単純。それにしたって、1-0 で勝って、3-0 で勝って、4-0 で勝つ……なんてマジか、こんなん、岐阜ぢゃない！全く、イヤになってまう（苦笑）。
とはいえ、ね。それでも勝てる、ウチ最高！雨が降らなくても、田ッカーでなくても勝てる、なんてね (笑) そして、忘れてたけど鹿児島からの初ゴール！長良川ではスコアレス、白波ではサヨナラ負け。借りは返せたような気がしないでもない。でもないが、星勘定はようやく五分。今度は長良川で、熨斗つけて御礼参りさせてもらうワ、ユナイテッドはん。そしたら、宝暦治水も大団円や（個人の感想です）。あと、漢・馬場ちゃんが馬場ちゃんのままでホッとした。
とりあえず、もう一回書いとくか。圧勝！（ぐん、）
●水曜のアウェー鹿児島戦。「思い出すな」ったって無理でしょう。無理ですって。昨年、７月下旬に組まれた試合は集中豪雨で延期になり、代替で組まれたのがシーズン終盤の水曜日。Ｊ２残留を争っていた直接対決を 0-1 で落とした岐阜は、残り４試合を全敗、２得点 17 失点と崩壊状態でＪ３に自由落下していった。
そして、舞台をＪ３に移した今年もアウェー鹿児島戦は水曜日。しかも、昨年と同様に今年も前節が日曜開催で中２日。対する鹿児島は、昨年は岐阜と同じく中２日だったけれど今年は中３日。試合環境は明らかに鹿児島有利。にも関わらず、試合は岐阜の完勝だった。「チカラ負け」の逆の、「チカラ勝ち」。前半は鹿児島のターンだったものの、これまで通りのしっかりした守備でしのぐ。まあ、相手ＦＷ（具体的には、昨年は岐阜でプレーした馬場）の（昨年と同様の）決定力不足に助けられた面もあるけどね（苦笑）。逆に後半開始から投入された高崎が登場数分でゴールを奪うと、爆撃機よろしく次々と相手守備陣を打ち破ってのゴール。特に、２点目。ワタルからの足元ピンポイント・クロスも素晴らしかったが、カラダで相手ＤＦをうまく抑えての反転シュートが見事。パワーフォワードのプレー。北海道サッカーリーグに「ゴール・プランダラー（Goal Plunderer）」を名乗るチームがあるけど、彼はまさにそんな感じの『ゴール強奪者』。こういうタイプ、ナザリト以来かも。実に頼もしかった。（吉田鋳造）

【第８節】藤枝 3-1 岐阜

●Ｊ３リーグも８月に入って東西２ブロック制が解除され、西ブロックのＦＣ岐阜も、いよいよ東ブロックのチームと対戦することになる。その初戦が、11 位の藤枝。元・岐阜の＃７水野泰輔がベンチにもいなかったのは驚いたし少し安堵した（苦笑）けれど、藤枝は試合序盤から攻撃の圧力を強め、また前線からプレスをかけてくる。これまでと同様、岐阜のＤＦ陣はセーフティ優先でボールを跳ね返すけれど、そのセカンドボールを岐阜の中盤が拾えない。さすがにアウェイ２連戦で疲労が蓄積していたのも要因だろうけれど、岐阜のシステムが 4-4-2 なのに対し、藤枝は 3-3-2-2。つまり中央の中盤で藤枝が数的優位になっているのも原因だったと思う。そして、７得点を挙げている＃９ＦＷ大石治寿をマンマーク気味に抑えたものの、５アシストの “デカモリシ” こと＃20 森島康仁をかなり自由にプレーさせてしまった。考えてみたら、岐阜も長身ＤＦが揃っているが、長身ＦＷ２人を相手にするのは初めてだったかもしれない。また、２人の周りを元・岐阜（かつ関市出身）の＃34 清本拓己が動き回ってボールを奪う。自陣で藤枝にセカンドボールを拾われ続け、シュートを撃たれ続ければ、さすがに３試合無失点の岐阜の守備にもほころびが出る。前半 38 分、＃20 森島の落としを＃34 清本にダイレクトでシュートを撃たれ、先制点を許してしまう（溜息）。“古巣対決” に相当気合いが入っていた＃34 清本に決められるとは……個人的には応援している選手なだけに、非常に複雑な気分だった（苦笑）。後半の岐阜は＃16 富樫佑太を投入して攻撃の活性化を図るものの、藤枝の守備を突破できない。先述したように藤枝は中央に選手が多いシステムを採用しているので、岐阜が数的優位となるサイドを徹底的にえぐって攻めるべきだと僕は思うのだけど、中央からカウンター攻撃する場面が多く、藤枝に人数をかけられて防がれ、また攻撃されてしまう。それと、良くも悪くも岐阜の攻撃

は中央で＃10川西翔太がボールを運んで始まることが多いと思うけれど、そこを藤枝は２人３人がかりで徹底的に潰しにいってボールを奪う場面が目立った。やはり、“＃10川西を経由しない攻撃パターン”を構築しつつ、マークが薄くなった時には＃10川西にボールを預ける、といったような攻撃方法を使い分けなくては、今後の試合は厳しくなるだろう。そして、これだけ厳しいプレスと攻撃を続ければ、そのうち藤枝の選手たちは足が止まると思っていたけれど、攻撃し続ける。後半65分の２失点目は、岐阜のＧ前で＃20森島が落としたボールを叩き込まれたもの。そして岐阜の選手たちの集中が切れてしまったのか、直後の後半66分には＃20森島に決められて３失点目。試合終盤になって＃14会津雄生が投入されると、ようやく岐阜も攻撃が活性化され、ＡＴに＃10川西が意地の１点を返すものの、時すでに遅し。１ー３での敗戦、しかもシュート数が６ー23と、圧倒的にシュートを撃たれまくった試合内容だった。
負けてしまったが、次はホーム戦だ。１週間の時間もある。まずは疲労回復させつつ、この試合の反省を糧に、さらに強いチーム作りを！そして、ホーム戦では（叫べないけれど）スタジアムに駆け付ける僕らサポーターたちに、勝利の歓喜を届けて欲しい。（ささたく）
●え～っとね、まぁ、中二日、中三日の連戦、しかもアウェイからアウェイ。そのうえ、ウチの遠征の中でも３番目か、４番目に遠い鹿児島遠征からの転戦というのはね、キツイよね。（鹿児島は遠い。それは間違いないが、距離で言ったら、八戸、秋田、岩手の方が遠い？）それはわかる。そのうえで、23本もシュート撃たれたら、こういう結果になっても何の不思議もない。いや、逆に３点で済んでよかったレベル。まさに「絵にかいたような完敗」。でも、絵に描いたような……と書いてはみたものの、一枚の絵に表現できるようなモノではないのがサッカー。それでも、最後に１点返せたのはよかった。この試合唯一と言っていいほどの繋がりと、攻撃にかかわった人数。そして、文字通り「ゴールにねじ込んだ執念の一撃」。昨季の長良川最終戦でも見せてくれたが、10番のプレーには熱いモノが込み上げてくるよね。
しかし、だ。藤枝との間にこれほどの差があるとは思いたくない。そもそも、ウチの戦力はＪ３では規格外とも言われていたんじゃないのか？かくいう自分も「カンタンなデヴィジョンではないのは百も承知だが、戦力は十分揃っている。」と思ってた。ただ、それはポテンシャルが存分に発揮できての話。ナゼ、他より、対戦相手の藤枝よりキツいスケジュールにも関わらず、サブを含めてほとんど同じ顔ぶれなのか。さらに、先制されているにも関わらず前田神を温存したのか。３点も差をつけられてからの交替に意味があるのか。それなら、DFを下げてでも二人を並べてロングボールを上げた方がよかったんじゃないか？選手のコンディションがよくないなら、ことさらに省エネ的に戦ってもよかった。後半開始からやってもよかったんじゃないか、という疑念は残る。あるいは、こんな試合にこそ、町田ブライトが必要だったんじゃないのか？悠史や王子に替えて、もっと早いうちから富樫や会津でもよかった。とにかく、こんな試合を繰り返すようでは先が知れてる。ターンオーバーという言葉の意味を改めて考えていただきたいと、つくづく思った。
でも、コレは門外漢の無責任なセリフ。やむを得ないチームの事情があったのかもしれない。ケガや病気によるコンディション不良とかだったら……。もちろん、それを知る由もないのだけれど。止むに止まれず、このメンツ……だったと思いたい。
いずれにせよ、出てしまった結果はどうしようもない。今後はこんな試合がないようにしてもらわないとね。一年でＪ２復帰ならね。しかし、キヨピーに決められるとはなぁ。泰輔にまで恩返しされなくてよかったと思っておくか（苦笑）。（ぐん、）
●岐阜は鹿児島帰り、藤枝は富山帰り。その移動距離の差、なのだろうか。いや、違う。藤枝の石﨑監督に岐阜が身ぐるみ剥がされた結果が、シュート数23対６の、ぐぅの音も出ない完敗になった。そんな試合で最後に１点を奪っただけ、岐阜は健闘したのかもしれない。
藤枝も、岐阜と同様に後ろからつなぐのではなく、ＦＷ森島を的にした攻撃なのだが、大石や清本や姫野といった彼の周囲の攻撃手が恐れることなく彼のポストプレーを信じて代わる代わるスピードまかせに突っ込んでくる。第２次大戦で喩えれば、日本軍の巡洋艦に襲い掛かるアメリカ海軍の戦闘機部隊。『ガンダム』で喩えれば、連邦軍のサラミス・タイプに群がって銃撃を浴びせまくるジオン軍のザク編隊か。序盤からのあまりの激しい攻撃に、前半終了時は「よしよし、０ー１なら上等、藤枝は必ず止まる、反攻はそこからだ」と確信していたのだけど、その藤枝は後半になっても落ちないスピード、落ちない運動量、落ちない迫力。これはもうどうしようもない。「勝手に見くびってごめんなさい」だ。ホントに、よく最後に１点を奪ったと思う。絶対に、藤枝側からしたらクリーンシートで終わらせないといけない試合だったはずだ。
そんな試合だったから、圧倒的な完敗でも不満はまったくない。あるのは不安だ。それも、かなりの。シーズン序盤から明らかだった、岐阜の欠点である「攻撃における引き出しの不足」。前田＆高崎の主力爆撃機に、あいちゃん＆トガシーの両翼支援戦闘機、攻撃機＆戦術指揮所の川西の攻撃編隊は強力だ。しかし、ここへの補給線を封じられると途端に窒息する。第３節、岐阜が讃岐相手に苦戦したのもそうだった。後ろからつなぐのではなく、前線に長いボールを入れてから始まる岐阜の攻撃は、その長いボールを出されないようにフォア・プレスをしっかりかけると、岐阜はそのプレスを交わしてつないでビルドアップを仕掛けるチーム戦術を持たないために窒息してしまうのだ。この藤枝戦の内容は、これから岐阜と戦うチームに大きなヒントを与えてしまったかもしれない。もっとも、この日の藤枝と同じサッカーが出来るチームがＪ３にまだあるのか、という疑問も残るが……。
先日開幕したばかりのＪ３リーグ……のように見えて、実は今日の岩手戦を終えるともうシーズンの４分の１を消化したことになる。これだけ試合が続く今季の環境では、いまから「つなぐ術」をチームに植えつけようにも間に合わないかもしれない。前線への補給線が細くなっても戦果を出せるくらいに、攻撃編隊にがんばってもらうしか昇格に手が届くルートはなさそうにも思える。コロナ禍中でのシーズン、週末→火・水曜→週末の連戦パターンはあと６回も設定されている。最近、出番が著しく減っているトーマや大地といったメンバーの奮起が不可欠だ。（吉田鋳造）